

- * いわゆる「家庭訓」の最初に夫婦のおしえがある。「妻たちよ。あなたがたは、主に従うように、自分の夫に従いなさい。なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。教会がキリストに従うように、妻も、すべてのことにおいて、夫に従うべきです。」（エペソ5：22～24）妻は夫にキリストに従うように、すべてのことにおいて、と言われると、絶対服従かと思われる。確かに、神は男から女を造られた。また、男のかしらはキリストであり、キリストのかしらは神（Iコリント11：3～9参照）であると言われるように、神は秩序を重んじておられる。それゆえ、女は基本的には男に従うことが求められている。
- * しかし、男は権威的な抑圧的なかしらであってはならない。「夫たちよ。キリストが教会を愛し、教会のためにご自身をささげられたように、あなたがたも、自分の妻を愛しなさい。」（エペソ5：25）教会（=私たち）を聖く、汚れのないものにするために、キリストは十字架の死までも受け入れるほどに、私たちを愛してくださった。この愛は「アガペーの愛」。自己犠牲の愛、見返りのない無償の愛。最高の愛である。夫はするように妻を愛さなければならない。もしもそうなら、夫は自分のことを棚にあげて、妻に、従いなさいとはいえないのではないか。「従う」のと「愛する」のとどちらがたやすいか。どちらともいえない。どちらも簡単ではない。
- * 『『それゆえ、人は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となる。』
この奥義は偉大です。私は、キリストと教会とをさして言っているのです。」（エペソ5：32）結婚は神が定められた大切な制度であり大きな祝福である。キリストと教会の関係と同じであると言われるくらい、一体とならなければならない。「(男が女のかしらである)とはいえ、主にあっては、女は男を離れてあるものではなく、男も女を離れてあるものではありません。女が男をもとにして造られたように、同様に、男も女によって生まれるのだからです。しかし、すべては神から発しています。」（Iコリント11：11～12）
- * エペソ5：21に「キリストを恐れ尊んで、互いに従いなさい。」とあった。この「互いに」はイエス・キリストを信じて救われた者は誰でも、「互いに従いなさい」ということである。夫のかしらとしての

秩序は保ちながら、夫婦においても互いに従う心を持つことが勧められている。また、「互いに愛し合う」ことも、主イエスが実践されたことである。当然夫婦の間でも、「アガペーの愛」を目指して歩んでいきたい。